CATJ26　プログラム

１０月３１日（土曜日）会場: Michigan League

8:00-8:50	登録・朝食・書籍展示販売 場所:*Michigan Room*	
8:50-9:10	開会式 会場: *Vandenberg Room*	
	会場： Vandenberg Room	会場：Hussey Room
9:15-9:45	「世代を超えて」前進するために：ポップカルチャーを使った試み 花井善朗/ 江森祥子（ ウィスコンシン大学オシュコシュ 校）	ビジネス外国語学習におけるケースメソッドの応用：教育理念、実践とその課題 高見智子（ペンシルベニア大学）
9:45-10:15	読解能力向上と日本理解を促進するための中上級教材の開発と実践～異文化間リテラシーの育成をめざして～ 石川　智（ボストン大学）	学習者および地域のニーズを考慮したビジネス日本語プログラムの設立—実践および地元日系企業との連携から得られたこと 池　絵里子/ 西　由美子（アイオワ大学）
10:15-10:45	日本の食文化をメインテーマにした内容重視型上級日本語の教科書の開発 畑佐一味（パデュー大学）	障害を持った学生への日本語教育：キャンパス内での協力と実践 近藤ひかる/ カルロス・ピメンテル（ウェスタンミシガン大学）
10:45-11:00	お茶休憩 /書籍展示販売 場所: *Michigan Room*	
11:00-11:30	[招待発表] 言語研究と「目に見えない」言語構造の明示化：主語論を中心に ウェスリー・M・ヤコブセン教授（ハーバード大学） 会場: *Vandenberg Room*	
11:30-12:00	[招待発表] 日本語文法の研究と私 マグロイン直美教授（ウィスコンシン大学マディソン校） 会場: *Vandenberg Room*	

12:00-1:30	昼食・書籍展示販売 **場所：** *Michigan Room*	
1:30-2:00	[招待発表] 日本語会話能力テスト（JOPT）の研究と開発：国内外の教育環境および多文化地域社会を対象に 鎌田　修教授（南山大学） 会場: *Vandenberg Room*	
	会場： Vandenberg Room	**会場：Hussey Room**
2:00-2:30	日本文化の解釈：通訳による日本語学習 アンナ・ジェリンスカ・エリオット（ボストン大学）	デジタルストーリーテリングプロジェクトを通して学ぶ様々な視点 松井久恵（プリンストン大学）
2:30-3:00	異なるレベルの学生を対象とした翻訳コースの試み 今井てるみ（ウィッテンバーグ大学）	口頭流暢性の客観的指標による研究－その意義と指標値算出の実際 深田淳（パデュー大学）/ 松本一美（ボールステイト大学）/ 広谷真紀（ローズハルマン工科大学）/ 桝本沙織（パデュー大学大学院生）
3:00-3:30	上級日本語における個人教授法の試み 湯浅悦代（オハイオ州立大学）	コーパスを基にした語彙リスト作成と利用 下浦伸治（パデュー大学大学院生）
3:30-4:00	お茶休憩・ミシガン大学美術館オーディトリアムへ移動	
4:00-4:30	[招待発表] ウチとソトの空間概念で 日本語・日本文化を解く --- 宮崎駿のアニメ『千と千尋の神隠し』の理解の一助として--- 牧野成一教授（プリンストン大学) 会場: ミシガン大学美術館 オーディトリアム	
4:30-5:30	[基調講演] JSL のための言語学：目的と方法 筒井通雄教授（ワシントン大学） 会場:ミシガン大学美術館 オーディトリアム	
5:30-6:00	お飲み物（オープン・バー） 会場：ミシガン大学美術館ホール	
6:00-8:00	晩餐 会場：ミシガン大学美術館ホール	

	１１月１日（日曜日）　会場: Michigan League	
8:30−9:00	登録・朝食・書籍展示販売 **場所:** *Concourse*	
	会場： Hussey Room	**会場：Michigan Room**
9:00-9:30	世代をつなぐ文法の教材開発 榊原芳美（ミシガン大学）	オンライン会話パートナー活動の実践報告：異文化間コミュニケーション能力育成の視点から検討した問題点と今後の方向性 ショー出口香（カルビン大学）
9:30-10:00	ブログメッセージにおける終助詞「よね」の機能 ふみこナズキアン（コロンビア大学）	学習支援者とは何か：日本語多読授業に見る教師の役割 纐纈憲子（ノートルダム大学）
10:00-10:30	進行形？結果の存続？それとも両方？: エネルギー導入理論に基づいた「ている」の機能の明確化 由紀ジョンソン（ジョーンズホプキンス大学）	コミュニティ参加型プロジェクト−多読クラブ運営に携わった学生のケースを中心に− 柴田智子/ 佐藤慎司（プリンストン大学）
10:30-10:45	お茶休憩 /書籍展示販売 **場所**: Concourse	
10:45-11:15	[招待発表] MOOC と外国語教育 宮川　繁教授（マサチューセッツ工科大学/東京大学） 会場: *Hussey Room*	
11:15-12:15	[AP Japanese パネル] ・AP 日本語試験と日本語プログラム生き残り戦略の一考査 田伏素子教授（イースタン•ミシガン大学） ・AP-targeted Japanese MOOC に向かっての日本語学習支援ツールの開発: AI チュータ 相川孝子教授（マサチューセッツ工科大学） ・AP Japanese を取った学生は大学の日本語教育に何を期待するか 森　美子教授（ジョージタウン大学） 会場: *Hussey Room*	

	１１月１日（日曜日）　会場: Rackham Graduate School
12:15-1:30	昼食 場所: *Assembly Hall*
1:30-2:45	[ラウンドテーブル] 1. 中西部の日本語プログラム：実情、問題点、解決策などに関する話し合い 1) 講師／ＴＡ、リソースの不足（解決策の一つとして、コースシェア） 2) 国際学生の急増加と国内学生の減少（および国内学生に与える影響？） 3) 中上級（３・４年）日本語コースの受講者数の減少 4) 日本語（あるいは、東アジア文化・言語研究）の専攻者数の減少 5) 姉妹校協定されている留学プログラムへの参加者の減少 司会：ハドソン遠藤陸子（ミシガン州立大学）、サドラー美澄（イリノイ大学） 2. 高校の日本語プログラム：実情、問題点、解決策などに関する話し合い 1) Declining number of students 2) Demanding teacher evaluation 3) 2-semesters or trimester 4) Varied student status 5) Overwhelming amount of work 6) Limited community involvement 7) Not enough time to collaborate 司会：晴美クーパー（グロブス高校）、森　巳奈（アテンス高校） 会場: *Assembly Hall*
2:45-3:00	閉会式/くじの当選発表 会場: *Assembly Hall*

CATJ26 Proceedings:

- **To be published on the CATJ26 website in March, 2016**
- **Manuscript deadline: January 15, 2016**